

伝法の

泰徳寺の氷石

平成元年三月五日号

浅間上町の泰徳寺に人の背丈ほどもある石があります。今回は、この石の話を住職の本真学さんに伺いました。

信仰された氷石

溶岩でできたこの石は「氷石」と呼ばれています。

昔は、原田の鑑石園の鏡石・今宮の飯森山の壺石とともに富士の三石と言われ、人々の信仰の対象となっていました。すなわち、氷

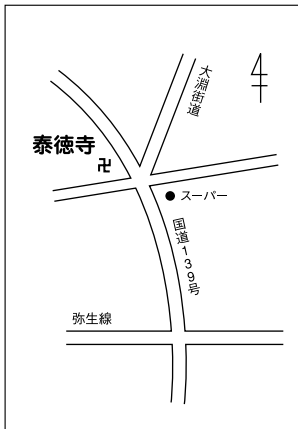
石は阿弥陀仏、鏡石は勢至菩薩、壺石は観音菩薩を意味していたと言われます。

このように信仰の対象となったのは、富士山信仰に基づいていたからと考えられます。

氷のように冷たかった

この石が氷石と呼ばれる理由は、この石をさわると夏でも氷のように冷たかったからです。

以前、地下水が豊富だったころ、氷石の下に水脈があつたため、石は氷のように冷たく、夏には人間





▶ 氷石（平成十四年二月撮影）

のように汗もかきました。

現在は、水脈が下がってしまったからか、冷たいと言うほどではありません。

郡ごほの石いしという意味も

また、昔、富士郡にある有名な石という意味で郡をこおりと読みこおり石と呼ぶようになったとも言われます。

やはり夏に人気

木本さんは「最近健康のため歩く人が多く、時々訪れる人もありますよ。氷石という名前のせいかな人気が出るのは、やはり夏休み。子どもたちが大勢訪れ、石をさわっていきますよ」と語っていました。

語ってくれた方

木本真学さん